

日本生物教育学会第107回全国大会（2023年3月4日）  
特別セッション「生物教育における国際交流の活性化に向けて」  
（発表スライドをもとに作成）

生物教育における国際交流の活性化に向けて

アジア生物学教育協議会（AABE）

隔年会議 参加経験者の視点から

中道貞子

生物教育研究所

## 参加した隔年会議

- ◇ 第16回 (1996) チェンマイ (タイ)
- ◇ 第17回 (1998) パサイ (フィリピン)
- ◇ 第19回 (2002) ワーナンブール (オーストラリア)
- ◇ 第21回 (2006) 公州 (韓国)
- ◇ 第22回 (2008) 大阪 (日本)
- ◇ 第23回 (2010) シンガポール
- ◇ 第24回 (2012) ケソン (フィリピン)
- ◇ 第25回 (2014) クアラランブール (マレーシア)
- ◇ 第26回 (2016) ゴア (インド)
- ◇ 第27回 (2018) バンコク (タイ)
- ◇ 第28回 (2022) オンライン (フィリピン)

## 発表した隔年会議

- ◇ 第16回 口頭発表 Inquiry into the Cell
- ◇ 第17回 ポスター発表 Environmental Study in Senior High School
- ◇ 第22回 カントリーレポート
- ◇ 第23回 カントリーレポート
- ◇ 第24回 ポスター発表 Do Bell Peppers Photosynthesize?
- ◇ 第25回 ポスター発表 Microscopic Observation of Microorganisms on Pickles
- ◇ 第26回 カントリーレポート、ポスター発表  
Current State of Biology Education and Prospects for Revision of CS
- ◇ 第27回 口頭発表 Inquiry into the Onion
- ◇ 第28回 口頭発表 Revised Biology Textbook Features for the Latest CS in Japan

AJBE (The Asian Journal of Biology Education)  
<http://www.aabe.sakura.ne.jp/Journal/Papers.htm>



## 隔年会議 Abstracts 掲載号

- \* Vol.2 (2004) 第19回 ワーナンブール大会 (オーストラリア)
- \* Vol.3 (2007) 第20回 チェンマイ大会 (タイ)
- \* Vol.4 (2010) 第21回 公州大会 (韓国)
- \* Vol.4 (2010) 第22回 大阪大会 (日本)
- \* Vol.6 (2012) 第23回 シンガポール大会
- \* Vol.7 (2013) 第24回 ケソン大会 (フィリピン)
- \* Vol.8 (2015) 第25回 クアラルンプール大会 (マレーシア)
- \* Vol.9 (2016) 第26回 ゴア大会 (インド)
- \* Vol.11 (2019) 第27回 バンコク大会 (タイ)
- \* Vol.14 (2022) 第28回 オンライン (フィリピン)

AJBE (The Asian Journal of Biology Education) への投稿

<http://www.aabe.sakura.ne.jp/Journal/Papers.htm>



- \* Vol.5(2011) Transitions in the Course of Study for Biology Education in Japan Focusing on Lower Secondary Schools, pp.26-32
- \* Vol.10(2018) Biology Education in Upper Secondary Schools at Present in Japan Teiko Nakamichi and Nobuyasu Katayama, pp.7-16
- \* Vol.12 (2020) Inquiry into the Onion, pp.11-16



「生物教育」に掲載されているAABE関連の記事  
<http://sbsej.jp/publish/journal/>



生物教育 第37巻 第3・4号（1997）：第16回関連記事

生物教育 第39巻 第3・4号（1998～99）：第17回関連記事

生物教育 第42巻 第4号（2001～2002）：第18回関連記事

生物教育 第45巻 第2号（2005）：第20回関連記事

生物教育 第47巻 第4号（2007）：第21回関連記事

生物教育 第48巻 第1・2号（2008）：第22回プログラム及び予稿

生物教育 第50巻 第2号（2009）：第22回隔年会議報告

第23回～第26回までの報告 第52巻（第1号） 第54巻（第1号）

第55巻（第3・4号） 第58巻（第3号）

# AABEに参加することで得られる利点

## アジアのいろいろな国の

- (1) 生物教育事情を知ることができる
- (2) 教育の現状や人々の生活を垣間見ることによって視野が広がる
- (3) 日本とは違った生態系をみることが出来る
- (4) アジア圏の多くの国は英語を母国語としないので、つたない英語でも気後れせずに話せる（英語圏での国際大会に参加する練習にもなる）



# (1) 生物教育事情を知ることができる \*カンントリーレポートや発表の内容から



第20回 チェンマイ大会  
生物教育 第45巻 第2号 (2005)

第26回 ゴア大会 日本のカンントリーレポート



# (1) 生物教育事情を知ることができる

＊学校訪問 会議内の企画としての訪問



韓国



シンガポール



(1) 生物教育事情を知ることができる

\* 学校訪問 自分で交渉しての訪問：フィリピンサイエンスハイスクール  
(生物教育 第39巻第3・4号)

\* 学校訪問 自分で交渉しての訪問：シンガポール Si Ling 小学校  
(生物教育 第52巻第1・2号)



写真はいずれも  
Si Ling 小学校



# (1) 生物教育事情を知ることができる

\*資料の入手 業者展示や書店での教科書購入など





## (2) 教育の現状や人々の生活を垣間見ることで視野が広がる

\* 懇親会・ランチタイム・コーヒーブレイク等での交流 (一例の紹介)



第26回インド大会にて：教科書におけるmisconception について口頭発表があり、その中で、動脈が青・静脈が赤で示されている教科書の紹介があった。

質問：検定制度のある日本では起こりえないことだが、なぜそのような間違いが生ずるのか。

回答：インドでは、何か国語にも翻訳する必要があり、その過程で生じる。

第25回マレーシア大会にて：第26回インド大会の紹介をする参加者たち

昼食をとりながらの雑談：

インドでは、少なくとも3つ位の言語が話せないと、10キロ圏内でしか生活できなくなる（10キロ離れた場所では違う言語）。インドでは、お札に17言語が記されていたことを思い出した。日本では理解できない多言語国家の実情を垣間見た。



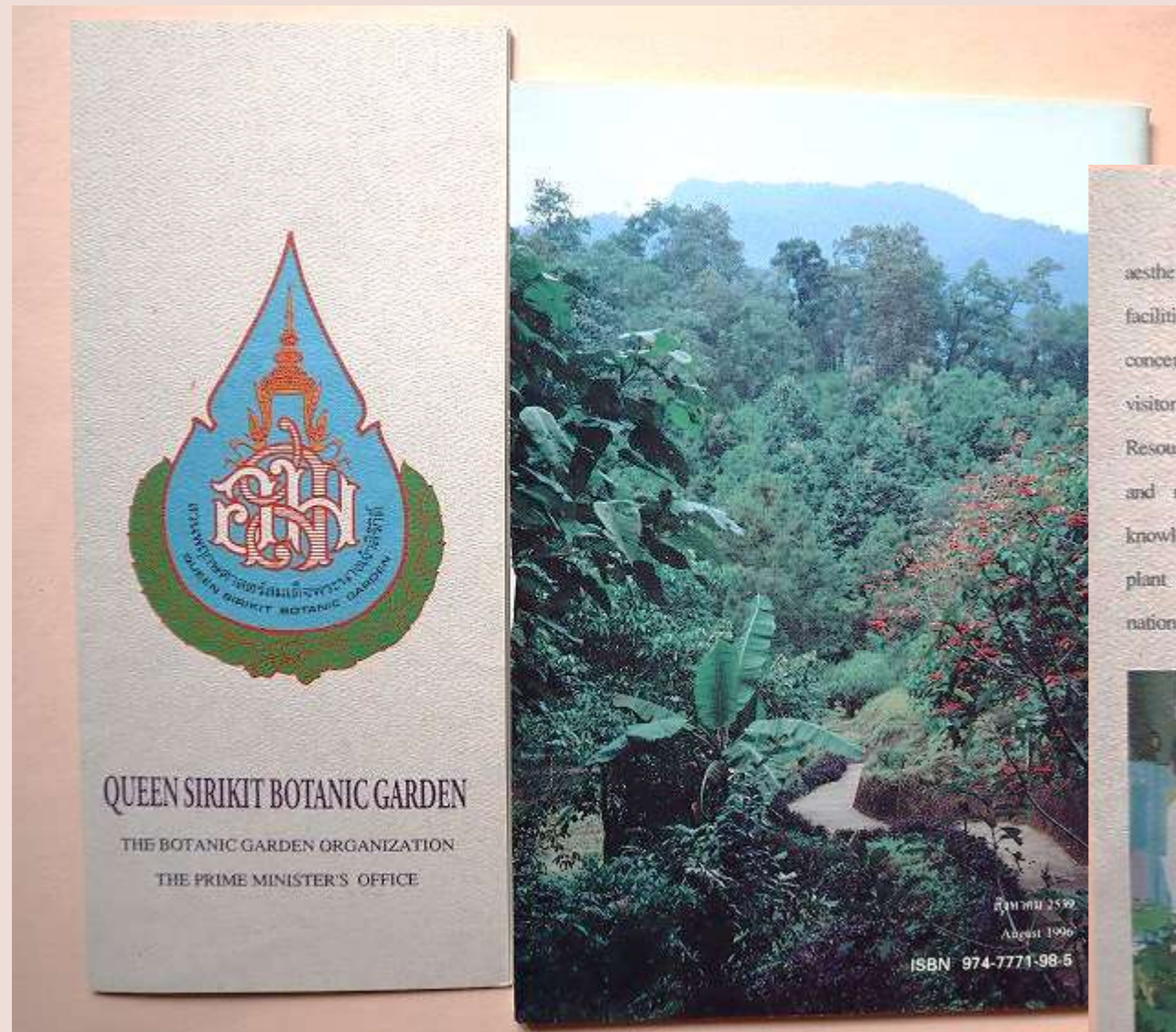
インドのお札：

[https://dailyportalz.jp/kiji/read\\_hindi\\_calendar](https://dailyportalz.jp/kiji/read_hindi_calendar)

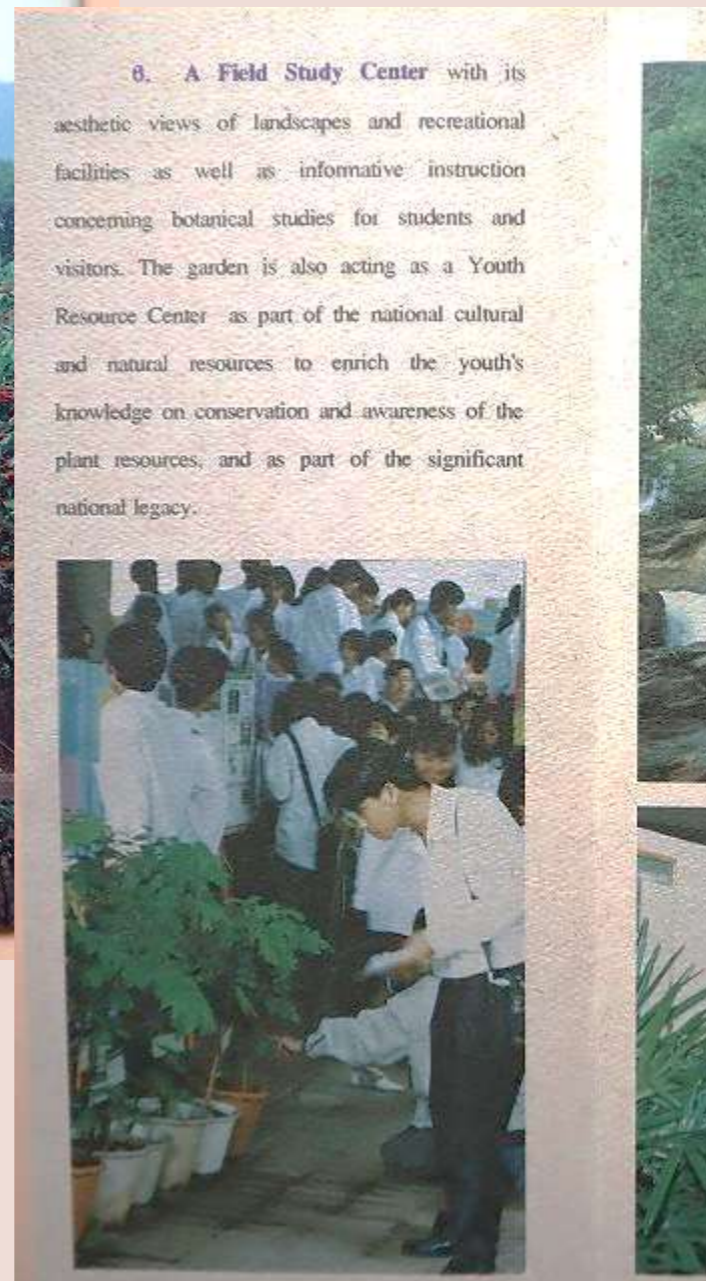


### (3) 日本とは違った生態系をみることが出来る

\* エクスカーション \* ポストカンファレンスツアー



Queen Sirikit Botanic Garden  
訪問 (第16回チェンマイ大会)



THURSDAY 28 NOVEMBER 2002

FIELD DAY

9.00 am	Participants will be collected from respective Motels for days field events which include
9.15 am to 11.00 am	Visit to local High Schools and observe students in class
11.00 am to 12.45 pm	Visit to Cudjee Wildlife farm to experience first hand Australian Wildlife
1.00 pm	BBQ Lunch at Lake Pertobe Foreshore
2.30 pm	Participants free to experience Warrnambool
7.00 pm	Conference Dinner at Sundowner Mid City Motel. A bus will collect participants staying at Gateway Motor Inn at 6.45 pm.

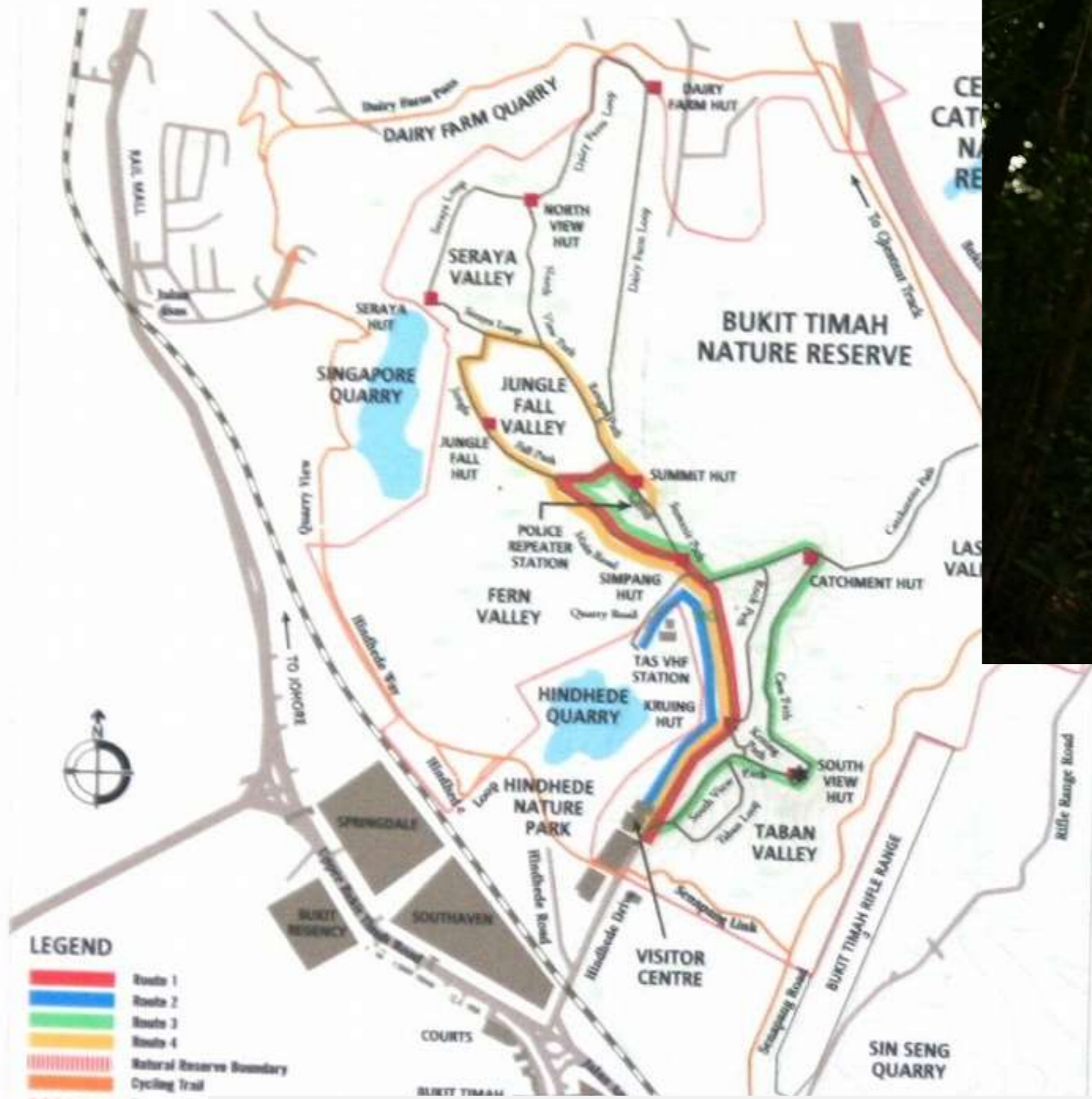
第17回ワーナンプール  
大会 日程表の一部





第21回 韓国大会  
(バードウォッチング)





第23回 シンガポール大会  
ブキテマ自然保護区 ガイド付きツアー



### (3) 日本とは違った生態系をみることが出来る

\*自主的な研修 (マレーシア セランゴール川ホテル観賞ツアー)



クアラルンプールから1時間半ほどでアクセスできるクアラセランゴールでは木々にとまるホタルがみられる。

その途中の道では、成長したものの (左下) ・植樹間もないもの (右下) など延々とパームヤシの植樹林がみられる





### (3) 日本とは違った生態系をみることができる

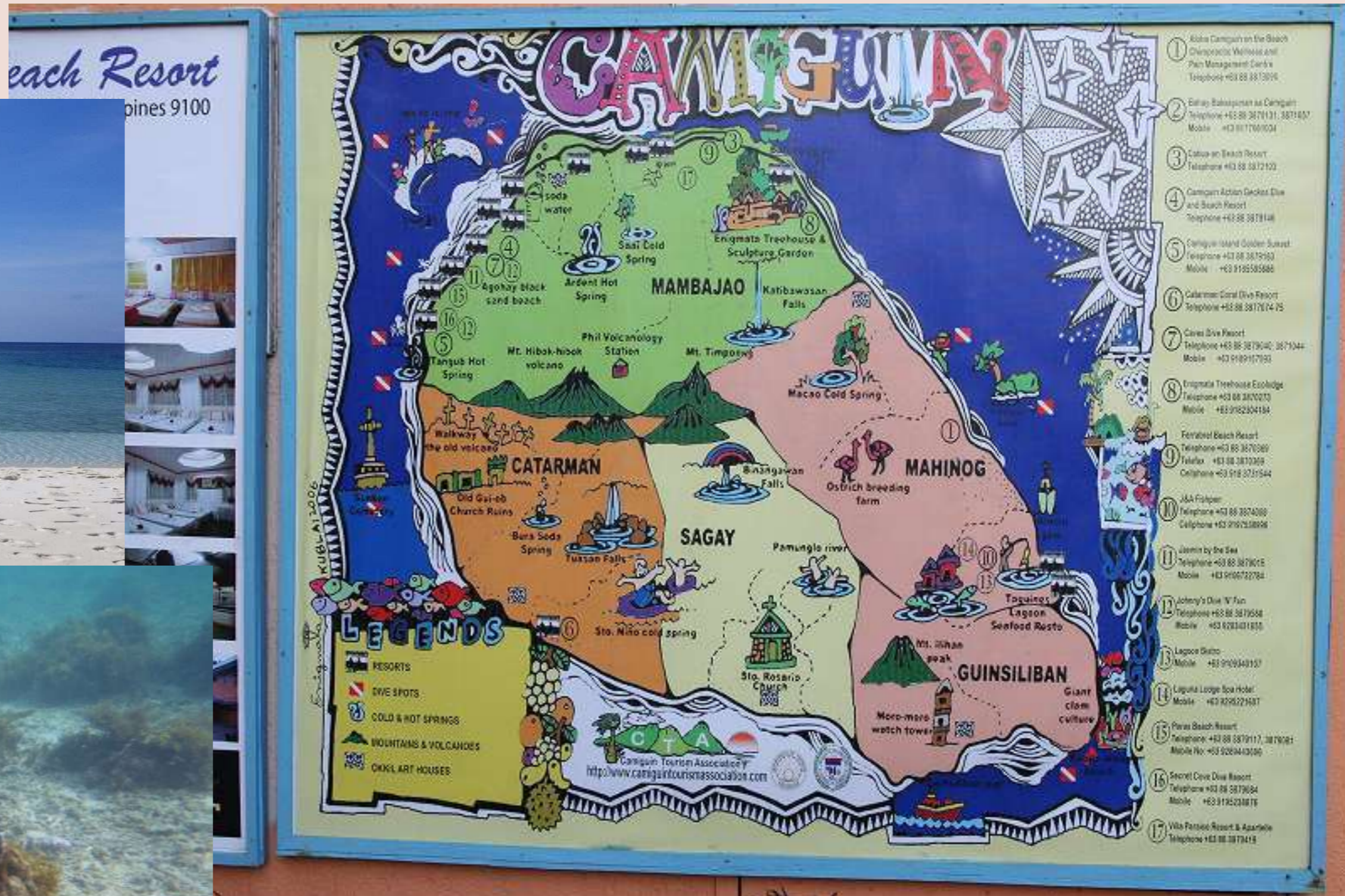
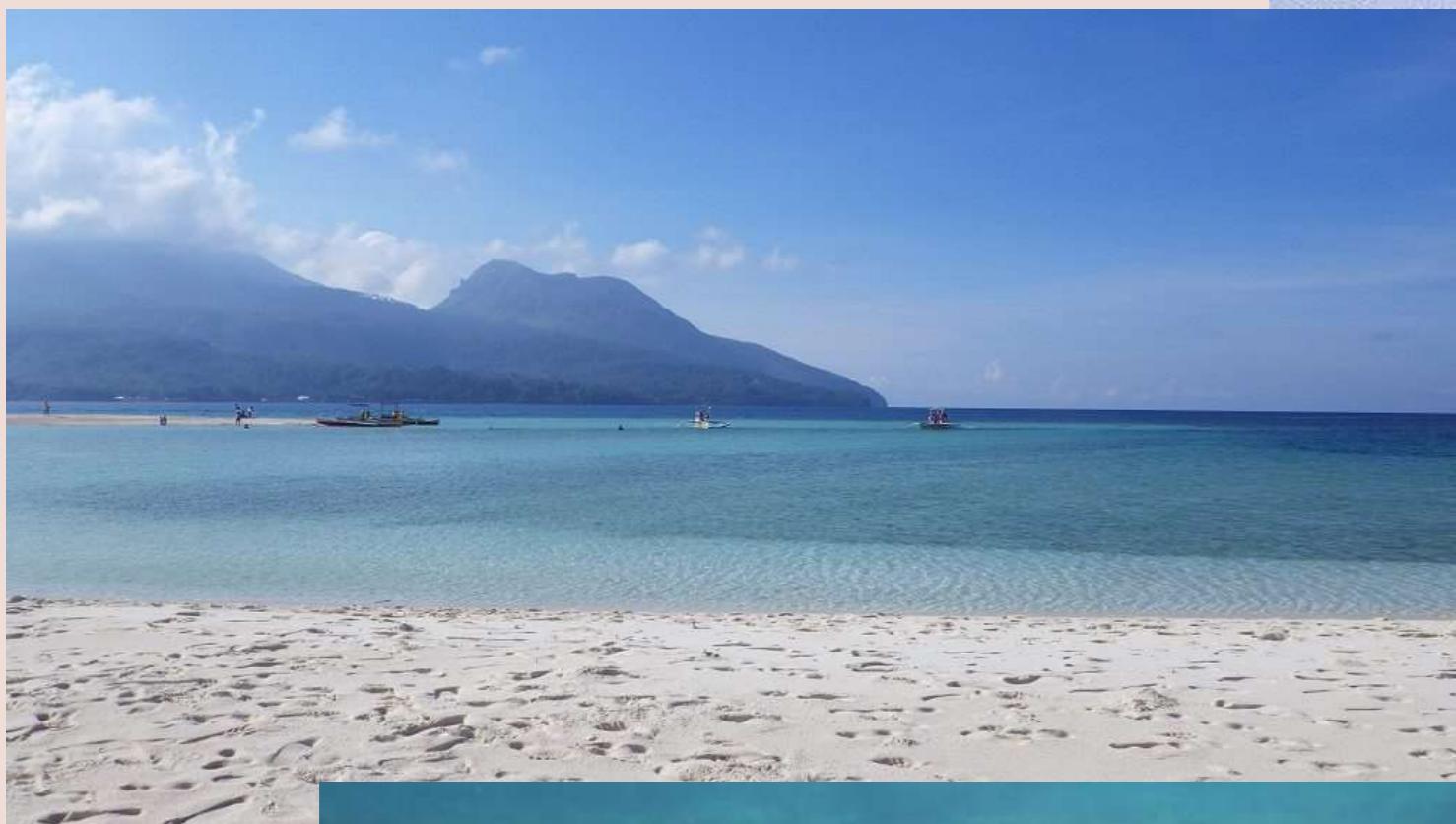
\*自主的な研修 マレーシア ケタム島（蟹島）





### (3) 日本とは違った生態系をみることができる

\* 自主的な研修



フィリピン カミギン島



2024年10月12日(土) ~14日(月)

~松山でお目にかかりましょう~



マニラ大会でのおみやげ